

大変だと思うが、子供達の為に一生懸命お願いしたい。

子供達に一生懸命やることを教えている我々は、下手でも、ミスしても、一生懸命やる後ろ姿を見せるべきではないでしょうか。

【審判をする前の気持ち】

●誤審を気にしすぎない

- ・自分も誤審をする。してはいけないのが基本だが、しない人間はいない。
- ・誤審をしなければ上手くならないぐらいの気持ちで前向きに。(子供たちのエラーと同じ)その後の反省は必要だが。
- ・「監督が自分に審判を任せた以上、チームには自分しかいない」ぐらいの気持ちと自信。
- ・真剣(一生懸命)にやる必要はある。
- ・誤審しても貸し借りの気持ちを持たない。(試合中には反省をせず、子供達に心の中で「ゴメン!」)
*誤審(ルールの間違い等)を他の審判に指摘された、又は自分で気付いた場合は内容確認(他の審判に確認等)の上、ジャッジミスとコールして思いきってジャッジ変更をしたほうが自信をもって後のジャッジができる。

●いつも子供達に言っている事

- ・大きな声。
- ・次のプレーを予測。(少しで良いけど)
- ・アウトカウント、ストライクカウントの確認。
- ・まず、一歩動く。
- ・集中。ゲーム中、自分の子供やチームの子供を見ない。審判に集中。(難しいとは思いますが)
- ・照れずに、自信を持って。(自信が無くても、多少はったりでも)

【試合前】

●ファールラインの確認。(目安を作る)

●塁審の定位置確認。

- ・ランナーによってのポジショニングの確認。(何を一番見たいかによって、位置が変わる)
- ・一塁審判、三塁審判は基本ファウルラインの外側に、ランナーがいないときは遠く(フォースプレイの判定に備える)、ランナーがいるときは近く(タッチプレーの判定に備える)。
- ・二塁審判はランナーの位置、又守備の状態に応じて内側、外側に入る。

●主なコールの種類。

- ・ストライク、ボール、セーフ、アウト、ファールボール、キャッチ、ノーキャッチ、タイム。
- ・プレー、ヒット・バイ・ピッチ(デッドボール)、ボーク、インフィールドフライ、
- ・ライン際のフェアのコールは基本声を出さない(ノーボイス)だが、最初は出しても良いと思う
- ・その他も沢山あるが、まずは上記ぐらいから覚えて頂きたい。

【まとめ・技術の初歩】

- ・大きな声。<上記>(選手及び他の審判がジャッジの中身を確認できるよう)
- ・次のプレーを予測。(少しで良いけど)<上記>
- ・アウト、ストライクカウントの確認。<上記>(これを誤審すると試合に影響大、不安な場合タイムをかけた他の審判に確認すべき)
- ・ボール、ストライク、アウト、セーフ等のコール(急ぎ過ぎず、良く確認してから)
- ・まず、一歩動く。<上記>
- ・集中。ゲーム中、自分の子供やチームの子供を見ない。審判に集中。(難しいとは思いますが)<上記>
- ・照れずに、自信を持って。(自信が無くても、多少はったりでも)<上記>
- ・ボールはちゃんと線で見ると子供を信じない。(たとえば盗塁の時、二塁審判がキャッチャーからのボールに目を切り、すぐ二塁を見ると後ろからぶつけられ痛い思いをする)
- ・角度をつける。
- ・出来るだけ、内側から見る。
- ・タイミングでジャッジをしない。(プレーを確認した上で、あわてずコールする)
- ・審判をするときは必要以外のプレーを見ない。(自チームの選手が気になるのはわかるが、その試合で任せられた審判の責任に集中する)

- ・ベースタッチの確認(最初は難しいので、せめてファール後のベースタッチの確認ぐらいはする、それによりベースへの執着を持てるようにする)
- ・ファールの判定確認と区分。*グラウンドによりファールラインがベース少し過ぎたところで切れており、又目安となるべきものもなくファールライン付近の判定が難しいと思われる時、試合前球審にその場合の判定を任せるのも一つのやり方である。(球審は内野のラインからの延長線で確認できる為、その場合球審はホームベース近くでラインをまたいでラインの延長線上を目視して判定する)
- ・ダブルジャッジをしたくない。(その為には各審判の判定区分を覚えるべきだが、場合によりその恐れがあると思われたとき、あわてずお互いアイコンタクトでどちらか一人に判定を任せる)
- ・インプレー、ボールデッドの確認。(ファールボール等ボールデッド後に必ずプレーをかけることを忘れずに)
- ・審判の判定時の型 ゴー、ストップ、ルック、ジャッジ。(実はなれるまで、凄く難しいかも。)

【最後に】

- 試合前にいくつか目標をつくる。(少しなれて来たら)
 - ・たとえば「この試合、コールを遅くしよう。」「大きな声で言い切ろう。」
- 実際の試合では球審に頼るケースは多々あると思うし、それで良いと思う。
- これがある程度出来ると次の段階へ。
 - ・牽制球のプレートを付けたままか、外してか？踏み出しはまっすぐか？
 - ・タッチアップの時は？
 - ・インフィールドフライのケースは？
 - ・フォーメーションの動き。
 - ・この他沢山あるが、最初からあまり頭に入れようとする、自分なら頭がパンクかおびえてしまう。
- 子供達の為にまずやってみて下さい。